

# News Release

2019年5月9日

この資料は BASF 本社(ドイツ)が 2019 年 5 月 3 日に発表した英語のプレスリリースを BASF ジャパンが日本語に翻訳・編集したものです。

## 2019 年第 1 四半期／年次株主総会

### **BASF、前年同期比で増収、予測通り減益**

#### **2019 年第 1 四半期:**

- 売上高は 162 億ユーロ(前年同期比 3%増)
- 特別項目控除前営業利益は 17 億ユーロ(前年同期比 24%減)
- 主としてマテリアル、ケミカル事業セグメントの不振による減益
- アグロソリューション事業セグメントの力強い成長

#### **2019 年の見通し:**

- 若干の売上増
- 特別項目控除前営業利益は前年比微増

BASF(本社:ドイツ ルートヴィヒスハーフェン)はこのほど、2019 年第 1 四半期の業績を発表しました。ドイツ、マンハイムのローゼンガルテンコングレスセンターで開かれた年次株主総会において、BASF 取締役会会長 Dr. マーティン・ブルーダー—ミュラーは、「2019 年第 1 四半期の BASF グループの売上高は、前年同期比 3%増の 162 億ユーロでした」と述べました。特別項目控除前営業利益は、前年同期比 5 億 4 千 9 百万ユーロ減の 17 億ユーロとなりました。「予測通り、これは主として、マテリアル、ケミカル事業セグメントの不振によるものです。これらの事業セグメントでは、前年同期にはイソシアネートの非常に高いマージンと、力強いクラッカーのマージンの恩恵がありました」とブルーダー—ミュラーは続けました。「その他」に分類される事業および、ニュートリション & ケア事業セグメントの特別項目控除前営業利益は大幅な減益となりましたが、サーフェステクノロジー事業セグメントにおける利益は前年同期の水準に

匹敵するものとなりました。アグロソリューションとインダストリアル・ソリューション事業セグメントでは、大幅に利益が改善されました。

2019年第1四半期の世界経済の成長は、地政学的展開と、特に米国と中国の貿易摩擦に影響を受けました。全般的に力強さを欠く市場のセンチメントが、多くのお客様の静観的な姿勢に反映されています。その結果、BASFグループでは、主要な顧客業界、特に自動車業界からの需要が低迷しました。

価格は前年同期比で2%下落しましたが、この下落の主因はイソシアネートとクラック一製品事業によるものでした。サーフェステクノロジー、アグロソリューション、インダストリアル・ソリューションズの各事業セグメントにおける価格の上昇は、マテリアルとケミカル事業セグメントにおいて予測されていた価格の下落を部分的に相殺するに留まりました。全体的に慎重なお客様の発注姿勢により、BASFグループの販売量は4%減少しました。売上増の主因は、BASFが2018年8月にバイエルから大規模な事業と資産の買収を行ったアグロソリューション事業セグメントにおけるポートフォリオ効果でした。為替の影響もまた、すべての事業セグメントの売上高にプラスの影響を及ぼしました。

2019年第1四半期の特別項目は通算で利益が費用を上回り、前年同期のマイナス1千8百万ユーロから2千6百万ユーロとなりました。アグロソリューションとインダストリアル・ソリューション事業セグメントの事業分離による特別利益が、統合、事業再編措置による費用およびその他の特別費用を上回りました。

営業利益(EBIT)は、前年同期比で5億5百万ユーロ減少し、18億ユーロとなりました。税引前利益は、5億2千万ユーロ減少して16億ユーロでした。税率は24.1%から25.4%に上昇しました。

継続事業からの税引後利益は、4億1千5百万ユーロ減少して12億ユーロとなりました。BASFの石油・ガスの事業活動から成る非継続事業による税引後利益は、9千7百万ユーロ増加し、2億7千4百万ユーロとなりました。これは主として、大幅に販売量が増加、特にロシアにおいて増加したこと、および2018年第3四半期に処分グループが認識されて、それ以降有形固定資産と無形固定資産の減価償却が停止したことによるものです。

純利益は2億7千3百万ユーロ減の14億ユーロとなりました。2019年第1四半期の1株当たりの利益は、前年同期の1.83ユーロに対し、1.53ユーロでした。特別項目および無形資産償却分調整後の1株当たり利益は、前年同期の1.93ユーロに対し、1.65ユーロでした。

2019年第1四半期の営業活動によるキャッシュフローは、前年同期比8億5千8百万ユーロ減の3億7千3百万ユーロとなりました。フリーキャッシュフローは、主に営業活動によるキャッシュフローが減少したことから、前年同期の6億4百万ユーロからマイナス3億6千8百万ユーロとなりました。

### **WintershallとDEAの統合**

すべての関係当局の承認を受けて、BASFとLetterOne(レターワン)は、2019年5月1日にWintershall(ヴィンターズハル)とDEAの統合を完了しました。BASFの取締役会副会長であるDr. ハンス-ウルリッヒ・エンゲルは、2019年第1四半期の業績を発表する電話会議で、「Wintershall Deaの設立により、中核となる地域で国際的な事業を展開するヨーロッパ有数の独立系探査・生産会社が生まれました。ドイツを拠点とする2つの事業体を統合することにより、BASFとLetterOneはWintershall Deaの強力な収益拡大の基盤を築きました」と述べています。

### **1株当たり3.20ユーロの配当金を提案**

取締役会と監査役会は年次株主総会において、1株当たり0.10ユーロ増額した3.20ユーロの配当を提案しました。「BASFの株式は2018年末の株価60.40ユーロに基づき、5.3%の魅力的な配当利回りを提供します」とブルーダーミュラーは述べています。年次株主総会による関連決議の採択後、5月8日に合計29億ユーロの配当金がBASFの株主に支払われる予定です。

### **2019年の見通し**

2019年の世界経済環境に対するBASFの予測は変わらず据え置きます。

- GDP成長率:2.8%
- 工業生産の成長率:2.7%
- 化学品生産の成長率:2.7%
- ユーロ/ドルの平均為替レート:1ユーロ=1.15ドル

■ 年間平均ブレント原油価格:1 バレル=70ドル

BASF は、BASF Report 2018 に記載した BASF グループの売上高と利益の予測に相違がないとし、若干の増収と特別項目控除前営業利益の微増、増加の範囲は 1% から 10%となる可能性を見込んでいます。また、投下資本利益率(ROCE)は資本コスト率を若干上回りますが、2018 年の水準よりやや下がる見込みです。

**2019 年第 1 四半期の事業セグメント別業績**

「ケミカル事業セグメント(石油化学品事業本部および中間体事業本部)」の売上高は、前年同期比で 13%減の 25 億ユーロでした。特に石油化学品事業本部の売上高が大幅に減少しましたが、中間体事業本部の売上高は微減に留まりました。売上減は両事業本部の販売量の減少と価格の下落によるものです。

特別項目控除前営業利益は前年同期比で 1 億 6 千 9 百万ユーロ減少し、3 億 6 百万ユーロとなりました。両事業本部とも減益となり、特に石油化学品事業本部の利益が大幅に減少しました。特別項目控除前営業利益の減少は、主に石油化学品事業本部における利益率の低下、特にスチームクラッカー製品の利益率の低下と、両事業本部の販売量の減少によるものです。また、固定費は両事業本部とも微増となりました。原因は、石油化学品事業本部では、主として修繕費の増加、中間体事業本部では、主に為替によるマイナスの影響でした。

「マテリアル事業セグメント(パフォーマンスマテリアルズ事業本部およびモノマー事業本部)」では、売上高は前年同期比で 15%減の 29 億ユーロでした。売上高の減少は、モノマーおよびパフォーマンスマテリアルズの両事業本部で見られましたが、モノマー事業本部管轄のイソシアネート価格の下落が主な要因でした。

特別項目控除前営業利益は両事業本部とも大幅に減少し、前年同期の 8 億 1 千 6 百万ユーロと比較して 3 億 2 千 3 百万ユーロとなりました。これは主に、モノマー事業本部のイソシアネート利益率の低下によるものです。パフォーマンスマテリアルズ事業本部では、主に自動車部門において利益率は高かったものの、販売量の減少を相殺できませんでした。両事業本部の固定費は、前年同期をわずかに上回りました。これは主として為替の影響によるものです。

「**インダストリアル・ソリューションズ事業セグメント**(ディスパージョン&ピグメント事業本部およびパフォーマンスケミカルズ事業本部)」の売上高は 22 億ユーロで、前年同期比で 2%減となりました。ディスパージョン&ピグメント事業本部の売上高は前年同期と同水準でしたが、パフォーマンスケミカルズ事業本部の売上高は若干減少しました。原因は主に、これまでパフォーマンスケミカルズに含まれていた BASF の製紙用薬品、水処理剤事業を Solenis グループに譲渡したことです。

「**インダストリアル・ソリューションズ事業セグメント**」の特別項目控除前営業利益は前年同期比で 15%増の 2 億 6 千 4 百万ユーロとなりました。これは主に、価格の上昇、販売量の増加および為替のプラス効果により、パフォーマンスケミカルズ事業本部の特別項目控除前営業利益が大幅な増益となったからです。ディスパージョン&ピグメント事業本部も、価格の上昇と為替のプラス効果により、特別項目控除前営業利益が微増となりました。同事業セグメントの営業利益には、BASF の製紙用薬品、水処理剤事業を Solenis グループに移譲したことによるパフォーマンスケミカルズ事業本部の特別利益が含まれます。

「**サーフェステクノロジー事業セグメント**(触媒事業本部、コーティングス事業本部および建設化学品事業本部)」の売上高は前年同期比で 13%増の 36 億ユーロとなりました。触媒事業本部は特に大幅な増収となり、建設化学品事業本部も大幅増収となりました。コーティングス事業本部は前年同期並みの水準でした。売上高の増加は、すべての事業本部における価格の上昇と、触媒事業本部と建設化学品事業本部における為替のプラス効果と販売量の増加によるものでした。

同事業セグメントの特別項目控除前営業利益は 1 億 5 千 9 百万ユーロで前年同期並みでした。建設化学品事業本部の特別項目控除前営業利益は、主に利益率の上昇により大幅に改善しました。触媒事業本部では、売上高の増加により、若干増益となりました。一方、コーティングス事業本部の特別項目控除前営業利益は大幅に減少しました。これは主として自動車業界の低迷によるものです。

「**ニュートリション&ケア事業セグメント**(ケア・ケミカルズ事業本部およびニュートリション&ヘルス事業本部)」の売上高は 16 億ユーロで、前年同期と同水準でした。ニュートリション&ヘルス事業本部の大幅な増収は、ケア・ケミカルズ事業本部の若干の減収により相殺されました。

同事業セグメントの特別項目控除前営業利益は、前年同期に報告された 2 億 5 千 4 百万ユーロを 13%下回る 2 億 2 千 2 百万ユーロでした。これは主に、ニュートリション&ヘルス事業本部における固定費の増加によるもので、その主因は、2017 年の操業停止に対する保険金を前年同期に受領したことによるものです。また、飼料添加物事業では利益率が低下しました。その結果、ニュートリション&ヘルス事業本部の利益は全体的に大幅に減少しました。しかしながら、ケア・ケミカルズ事業本部の利益率の上昇による利益の改善で相殺されました。

「アグロソリューション事業セグメント」の売上高は、前年同期比 53%増の 26 億ユーロでした。これは主に、2018 年 8 月にバイエルから大規模な事業と資産の買収を行ったポートフォリオ効果によりもたらされました。旧来の事業でも BASF は高い価格水準を達成しましたが、販売量は主に天候に関連した要因によって前年同期比で大幅減となりました。

同事業セグメントの特別項目控除前営業利益は 7 億 4 千万ユーロで、前年同期比 75%増となりました。この利益増は主に買収事業によりもたらされました。営業利益は、バイエル事業の買収の過程で反トラスト法取締当局により課された条件に従って事業の一部を売却したことによる特別利益を含みます。2019 年第 1 四半期には、これらの利益が買収事業の統合に関する特別費用を上回りました。

「その他」に分類される事業の売上高は前年同期比で大幅に増加しました。これは主に、BASF の製紙用薬品、水処理剤事業のうち Solenis への事業譲渡の対象外となった部分の活動によるものです。この対象外となった部分は、当該事業譲渡以降「その他」に分類されています。特別項目控除前営業利益は前年同期の数字から大幅減益となりました。この減益の主因は、為替の影響と BASF の長期インセンティブ制度における評価替えによるものです。

※このプレスリリースの内容および解釈については英語のオリジナルが優先されます。

#### ■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、ドイツ ルートヴィヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、環境保護と社会的責任の追及、経済的な成功の3つを同時に果たしています。また、全世界で約122,000人の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献できるよう努めています。ポートフォリオは、6つの事業セグメント(ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション&ケア、アグロソリューション)から成ります。2018年のBASFの売上高は約630億ユーロでした。BASF株式はフランクフルト証券取引所(BAS)に上場しているほか、米国預託証券(BASFY)として取引されています。BASFの詳細情報は、[www.basf.com](http://www.basf.com)をご覧ください。

#### ■将来の予測に関する記述について

本リリースには BASF 経営陣による現時点での推測および予測、ならびに現在入手可能な情報に基づく「将来の予測に関する記述」が含まれています。これらはここに記す将来の進展や業績を保証するものではなく、多くの要因に依存し、様々なリスクと不確実性を含んでいるほか、正確とは限らない仮定に基づいています。本リリースに記載された将来の予測に関する記述に関しては、BASF は更新の義務を負いません。